

# 特集・子どもの文学この二年

## ★総論

### 『漫画 君たちはどう生きるか』の衝撃

長谷川 潮

#### 1 文庫本を貸さないで

昨年十月、東京で開催された全国図書館大会で、文藝春秋の松井清人社長が出版業界を代表して講演した。その中で松井氏は図書館側に対して次のように要望したという。

「文庫は出版社の収益の柱。図書館での文庫の貸し出しをできればやめて頂きたい。これはお願いです。」(『朝日新聞』17年11月23日)

つまり館外貸出がなければ読者が購入する率が上がるはずだから、それがあることによって文庫本の売り上げが阻害されているということだろう。出版業界が図書館側に注文を付けたのは、これが最初ではない。二〇一五年の同じ大会では、新潮社の佐藤隆信社長が、ベストセラーを図書館が複数購入することが出版不況の一因だと主張した。

図書館側が、これらの主張や要望を受け入れることはあり得ない。一般の公共図書館において、事典や年鑑のような資料本は館内利用のみに制限されるのが普通だが、それ以外の多くは館外貸出される。館外貸出は図書館の主要な業務の一つだから、動かすわけにはいかない。出版側だってそのことは承知の上で、あえて要望を述べたのは出版業界の苦境を表明するためだったろう。そしてその苦境は出版社にとどまるものではない。関連業界(たとえば書店)にも大きくつながる問題である。

出版業界の不振は図書だけにとどまらず、雑誌や新聞も同様である。たとえば「雑誌発行部数は昨年、ピークだった1997年の43%まで減少。休刊も相次ぐ」(『朝日新聞』17年12月29日)のだ。図書館の雑誌展示棚に、「〇〇は